



戦友録¹⁴ 反交

沈黙の部分に耳を傾けて欲しい
「国なんて滅びようが」と言いつつ
なだいなださん

吉川 勇一

んの話は、寺山の歌とすぐ結び付く思いました。

■ご承知のよう
に、作家で精神科医だつ

たなださんは、ネット上の仮想政党「老人党」を立ち上げたり、井上ひさしさん、内橋克人さんとともに「鎌倉・九条の会」の呼びかけ人にもなり、ユーモアもたっぷりまじえながら、独自の反戦・社会批判論を展開しました。なださんは齢が私とほとんど同じで、何度も便りのやりとりもしていました。

■西東京でのデモに参加した日の翌日から私はひどい風邪にかかり、続いて「腰椎圧迫骨折」とかいよいよひどい背中への痛みにひと月以上も見舞われ参っているのですが、6月11日、東京・自由学園明日館での「なださんを偲ぶ会」(左上の写真)に参加しました。200人以上の参加の方がありました。

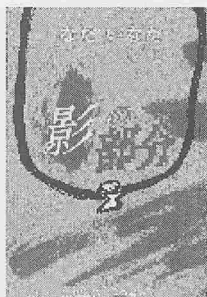
■その会では、なださんの「くねくねくねくねくねくねくねくねくねくねくねくねくね」というカードが配られました。それには、こう書かれていました。

「わかりきったことのように思えるものほど、わからぬものだ (『片目の哲学』より)

ためらうなよ、人を救って罪になるなら罪を犯しなさい。／ちよつとおつちよちよこちよいになりなさい。／ぼくほど、ひどくならない

ほうがいいけれど (『おつちよちよ医』より)
語られていない部分、沈黙の部分に耳を傾けて欲しい (『信じること、疑うこと』より)
感謝をこめて なだいなだ」

■このカードの最後にある「語られていない部分、沈黙の部分に耳を傾けて欲しい」という文を見て、私がすぐ思うのが、なださんの小説「影の部分」



(1985年、毎日新聞社)でした。なださんは自分のことを「おつちよちよい」と語り、また多くの人は、なださんをユーモアの豊かな面白い方だと言います。しかし、私は、決してそれだけではないと思っています。ユーモアにあふれ、面白く受け取られるなださんの表現の後ろには、「語られていない部分、沈黙の部分」があるのだと思うのです。

■「影の部分」も、ベ平連の米反戦脱走兵援助活動について、表面的には軽く、ユーモラスな表現で書かれてあるように見えるのですが、しかし内容には、父娘の間の対立、学生運動の内ゲバに関係する娘など、60年代終わりから70年代にかけての家庭によくあった深刻な問題がたくさん含まれています。ぜひご一読ください。また、最近著では、『とりあえず今日を生き、明日もまた今日を生きよう』(青萌堂、2013年6月刊)があります。

(よしかわ・ゆういち/本会共同代表)

なださんは、「われわれが考えるのは、人間の問題なんです。国のあり方は、われわれの決めることなのです。私たちの仕事は、戦争のない未来の世界を、次の世代の人たちに譲り渡したいということなんです。国なんて滅びようが、なくならうが、問題じゃないんです」と話したのでした。(『市民の意見』90号に全文あり)。なださ